新時代の教育を支える働き方改革通信

～ My Revolution ～

第142弾（令和８年１月号）

デジタル採点システムで拓く学校の未来

定期考査・実力テストなどの採点・成績処理業務は、放課後などの限られた時間で正確に行わなければならず、教員の負担感の大きい業務の１つとなっています。そこで解決策として期待され、広がりつつあるのが「デジタル採点システム」です。導入により業務の効率化・省力化が図られ、正確性が向上することに加え、校務支援システムなど他のソフトと連携することで、データ分析を通じた授業改善に繋げられるなど、多面的な効果をもたらします。

１ 道内における「デジタル採点システム等の活用」の現状

道内では、小・中・高を中心に導入が進んでいます。
（R6、R7年度「学校における働き方改革北海道アクション・プランに係る取組状況調査」）

学校種別	R6年度	R7年度	前年比（増減）
高等学校	４５校	６９校	＋２４
特別支援学校	１校	１校	±　０
小学校	１３８校	１７１校	＋３３
中学校	８５校	１０３校	＋１８

２ 導入効果（メリット）

導入効果を最大化するには、操作方法の習得や、必要に応じてテストを採点処理しやすい形式に揃えるなど、初期の負担も伴いますが、それを上回る効果が期待できると考える学校が増えています！

① 業務の効率化・省力化

処理件数が多い場合は**採点効率が格段に向上**し、成績処理時間が大幅に軽減されます。

② 処理精度の向上と心理的負担の軽減

採点ミスや集計誤りが減少し、教員の心理的負担の軽減も期待できます。

③ 学習指導の充実【※機能がある場合】

システムにより設問ごとの**正答率や生徒の得意・不得意が可視化**されます。
データに基づき、生徒一人一人へのきめ細かなフィードバックが可能になります。

④ 学力向上等の実現

採点結果の分析が容易になり、データに基づく授業改善に繋げることができます。
業務の効率化による隙間時間の創出にとどまらず、**授業力向上と学力向上**へも接続できます。

３ 学校における導入プロセスの例

【現状把握】
- 採点業務の実態確認
- 負担感を共有
- 既存の校務支援システムの状況を整理

【試行・検証】
- 無償版やトライアル版での試行
- 一部教科や学年での試行
- 効果、操作方法や負担感を確認

【将来像の整理】
- 既存の校務支援システム等との接続を想定
- 成績処理等の業務フローを整理
- 授業改善等への活用研修など

【導入】
- 検証結果等を踏まえ本格導入
- 必要に応じて有償機能を選択
- 運用後の課題などを必要に応じて改善・見直し

※有償機能を導入する場合は必要なものを精選（データ分析機能など）

北海道教育庁教職員局教職員課